

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日豊高速運輸株刈谷物流センター	階数	地上2F
建設地	刈谷市小垣江町西高根207、208、209	構造	S造
用途地域	指定なし、法第22条区域	平均居住人員	20人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,100時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年8月 予定	評価の実施日	2015年1月9日
敷地面積	8,076.83 m ²	作成者	藤井良輔
建築面積	3,924.20 m ²	確認日	2015年1月15日
延床面積	7,002.80 m ²	確認者	藤井良輔



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 81%
③上記+②以外の 81%
④上記+ 81%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p>15.7 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積 (建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	準独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									2.3
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 騒音									
1	室内騒音レベル			-	-	3.0	-		
2	設備騒音対策			-	-	-	-		
1.2 遮音									
1	開口部遮音性能			-	-	3.0	-		
2	界壁遮音性能			-	-	3.0	-		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	3.0	-		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	3.0	-		
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1	室温			-	-	3.0	-		
2	負荷変動・追従制御性			-	-	3.0	-		
3	外皮性能			-	-	-	-		
4	ゾーン別制御性			-	-	-	-		
5	温度・湿度制御			-	-	-	-		
6	個別制御			-	-	-	-		
7	時間外空調に対する配慮			-	-	-	-		
8	監視システム			-	-	-	-		
2.2 湿度制御									
1	湿度制御			-	-	3.0	-		
2.3 空調方式									
				-	-	3.0	-		
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1	屋光率			-	-	3.0	-		
2	方位別開口			-	-	3.0	-		
3	屋光利用設備			-	-	3.0	-		
3.2 グレア対策									
1	照明器具のグレア			-	-	3.0	-		
2	屋光制御			-	-	-	-		
3	映り込み対策			-	-	-	-		
3.3 照度									
1	照度			-	-	3.0	-		
3.4 照明制御									
				-	-	3.0	-		
4 空気環境									
4.1 発生源対策									
1	化学汚染物質			-	-	3.0	-		
2	アスベスト対策			-	-	-	-		
3	ダニ・カビ等			-	-	-	-		
4	レジオネラ対策			-	-	-	-		
4.2 換気									
1	換気量			-	-	3.0	-		
2	自然換気性能			-	-	3.0	-		
3	取り入れ外気への配慮			-	-	3.0	-		
4	給気計画			-	-	-	-		
4.3 運用管理									
1	CO ₂ の監視			-	-	-	-		
2	喫煙の制御			-	-	-	-		
Q2 サービス性能									3.3
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1	広さ・収納性			-	-	3.0	-		
2	高度情報通信設備対応			-	-	3.0	-		
3	バリアフリー計画			-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性									
1	広さ感・景観			-	-	3.0	-		
2	リフレッシュスペース			-	-	-	-		
3	内装計画			-	-	-	-		
1.3 維持管理									
1	維持管理に配慮した設計			-	-	-	-		
2	維持管理用機能の確保			-	-	-	-		
3	衛生管理業務			-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震									
1	耐震性			2.5	0.52	-	-		
2	免震・制振性能			3.0	0.48	-	-		
				3.0	0.80	-	-		
				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数									
1	躯体材料の耐用年数			2.6	0.33	-	-		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23	-	-		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			2.0	0.23	-	-		
4	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.09	-	-		
5	空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08	-	-		
6	空調・給排水配管の更新必要間隔			5.0	0.15	-	-		
7	主要設備機器の更新必要間隔			1.0	0.23	-	-		

②
 硬質塩化ビニル管の採用

2.4 信頼性				1.4	0.19			
1 空調・換気設備				1.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3 電気設備				1.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20			
5 通信・情報設備				1.0	0.20			
3 対応性・更新性				4.1	0.48			4.1
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			
1 階高のゆとり			1階: 6.75m、2階: 5.15m	5.0	0.60	3.0		
2 空間の形状・自由さ			申請部分1階 壁長さ比=0.08	5.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり			2階床積載荷重 14700N/m ²	5.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性				2.6	0.38			
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				1.0	0.17			
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			
6 バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			1.7
1 生物環境の保全と創出	●	③		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		2.0	0.40			2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.3
LR1 エネルギー				-	0.40			3.8
1 建築物の熱負荷抑制			外皮性能BPI=0.635 PAL*低減率=0.635	4.0	0.01			4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			ERR値59%(BEI=0.46)	5.0	0.42			5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				5.0				
集合住宅の評価				3.0				
4 効率的運用				3.0	0.28			3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50			
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.0
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1 節水			節水型タンク付便器、自動水栓、センサー付小便器の採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63			2.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②		1.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		設備機器の露出設置	4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.9	0.22			3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用			F☆☆☆☆材の使用	5.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.68			
1 消火剤			ABC粉末消火器(二酸化炭素)	4.0	0.50			
2 発泡剤(断熱材等)				-	-			
3 冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30			2.9
1 地球温暖化への配慮		①	普通コンクリート使用	3.7	0.33			3.7
2 地域環境への配慮				3.5	0.33			3.5
2.1 大気汚染防止			燃焼機器の設置なし	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制			敷地内駐車場の完備	3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●			5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				1.6	0.33			1.6
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				-	-			
1 騒音	●			-	-			
2 振動	●			-	-			
3 悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				1.6	0.67			
1 風害の抑制				1.0	0.70			
2 砂塵の抑制				1.0	-			
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				1.6	0.33			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEEあいち評価マニュアル2011年度

日豊高速運輸備刈谷物流センター

■評価ソフト:

CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.7_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.5	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.1	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 日豊高速運輸(株)刈谷物流

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 物流倉庫の計画。既存畑地。2階倉庫は循環水を利用したルーフファンの設置をし、夏場の室内温度上昇の抑制を試みる。照明設備はLEDとし、消費電力量削減に取り組む。開発許可条件にある調整池施設を設置し、雨水の一時貯留機能がある。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 評価対象外
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 評価対象外
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 北、東、南面は境界沿いに生垣による緑化を実施している。特に北側は遮光フェンスを設置し農作物への光害に配慮している。外壁色はグレー系とし、インパクトをなくしている。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 一般照明機器をLEDとする。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型洋便器、自動洗浄小便器、自動水栓(一部)、F☆☆☆☆仕上げ材の使用。(塗装材、錆び止め、塗床材)
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 開発許可基準による調整池容量を確保している。従業員分と来客駐車場を設置している。自転車置場(屋根付)を設置している
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。